



なかったことに

マスクをつけての毎日5科目の授業、そして自習時間でもマスクを外せない夏を今年の中3は良く耐えてくれました。こんな状況がここまで続くとは思わなかったですし、いっそこんなつらい夏は、なかったことにしておきたくもなります。しかし、中世から栄えていたヨーロッパの都市に行くと、中心街の広場に「ペストに打ち勝った記念の塔」が建っていたりします。犠牲になった人々を忘れない、人々が立ち向かったことを忘れないというためだと聞きました。だからこそ今、コロナに対して世界がどう立ち向かい、政府がどう対応し、人々はどうもがいていたかを記録しておくことが大切かもしれません。それが歴史となり、歴史に学んで歩いていく未来の人々の役に立つのだとしたら。

誰でも「なかったこと」にしておきたいことはあるはずです。精神衛生上、辛かったことは忘れてしまってもいい場合もあるでしょう。でも、なかったことにしていいことばかりにしてしまうと、前に進まなければならない時に目印なしに行くようなものではないでしょうか。日々の学習においても、たとえ間違えた問題でも「なかったこと」にしないで記録を残しておくこと、解きなおしてみることが大切です。今年も中3に「間違い直しノート」を配る時期になりました。すでにほとんどの人が活用してくれています。記録を重ねていけばいくほど、自分だけの参考書が出来上がっていきます。先輩たちはそれをお守り代わりにして入試に臨んでいました。

もちろん同じことは小学生や中1・中2のみなさんにも言えることです。計算間違いや漢字の書き間違いをすぐに消しゴムで消して、正解を書き写すのがクセになっている人は要注意です。それでは具体的にどうやっていきましょうか。例えば中2数学の今回のテスト範囲である連立方程式ならば、間違えたポイントを自分で見つけられるようにしましょう。式の引き算の符号なのか、係数の合わせ方なのかなど原因を特定できればテスト本番でのミスは防げます。

さあ、これからは「なかったこと」を「無し」にしてみませんか。